



Title	序言
Author(s)	
Citation	大阪外大英米研究. 1980, 12
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/99045">https://hdl.handle.net/11094/99045</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 序 言

森塚教授は昭和55年2月20日で満60才還暦を迎えられる。本号はそれをお祝して、職場を同じくする人達が寄稿した記念論文集である。森塚教授は童顔というのであろうか、日頃親しくおつきあいさせて頂いていて、全くお年のことなど関心をひくことのない若々しさである。昔流に言えば耳順ということになるのだが、そんなことばは現実の先生の姿にはおよそなじめないといつてよい。

とはいえ、振り返ってみると、私事にわたって恐縮であるが、森塚教授と私が始めてお会いしたのは、かれこれ30年近くも前のことになる。当時大塚高信先生が肝煎りとなられて発足した大阪英語学談話会になるものがあり、同先生宅で月例の研究会がもたれたのであるが、その席でその時は神戸商大に奉職されていた森塚さんと学問上の交流が始まったのであった。自分のことはわからないが、森塚さんは颯爽とした気鋭の研究者で、特に数理的な英語の解明に関して、数学に弱い私などは大いに啓発されたものである。爾来いろいろな出版物の仕事では共同の作業に従事したことを、なつかしく思いだす。

森塚さんを大阪外大にお迎えしたのは昭和44年の春である。外大では文学でなく外国語研究科として大学院が創設されることになったため、英語学の陣容の強化を必要としたのであった。恐らく森塚さんとしては非常な決意を以て本学に赴任されたことであつたらう。われわれとしてはそのご期待にこたえることができたかどうかかわからないが、森塚教授は本学の中に完全にとけこみ、われわれと一体になって仕事をしてこられた。温厚なお人柄と、驚くべき粘りとエネルギーで、学生の指導と世話に傾倒されていることは、ありがたい限りである。これからもご自愛あつて本学の発展のためにご尽力下さることを願ひする。ささやかながら、『英米研究』12号を以て森塚教授のご還暦を祝する次第である。